M.Nakanishi home page

『IRON ROAD 和鉄の道』

BY M.NAKANISHI ironprint.htm

古代から昭和初期に至るまで、日本に西洋製鉄法が根づくまでの間、『たたら』と呼ばれる砂鉄と木炭を使った 素晴らしい日本独特の製鉄があった。
３世紀～５世紀、さらに飛鳥・奈良時代に至るまで、朝鮮半島から、日本沿岸をめぐる『大陸からの鉄伝来の道』があった。
大陸からの「稲作」や弥生文化の伝来の道 数多くの渡来人がやって来て、「日本誕生」に関わった道 『たたら』の言葉の響きの中にあるロマンに魅せられ 『 COUNTRY WALK 『IRON ROAD -和鉄探訪-』をスタートした.

全国至る所に『たたら』の製鉄遺跡・砂鉄の産地があるが・・
弥生時代・日本の誕生が金属器の使用に始まるとすると武器・農耕機具等の 『鉄器』の支配は日本の国の広がりにきわめて重要な役割を担ったに違いない。
『日本誕生』と『鉄』の展開には、 非常にミステリアスな出会いが有るに違いない。

- 最近の青森三内丸山縄文遺跡や吉野ケ里遺跡に代表される弥生遺跡の発掘は 日本の誕生研究に大きな展開をもたらしている。
  また、昨年全国をブームの渦に巻き込んだアニメ映画「もののけ姫」は「たたら」を広く一般の人の人たちに紹介するきっかけとなった。
- 司馬遼太郎著『街道を行く』の一遍である「砂鉄の道」や「朝鮮半島を行く」の中には著者の鋭精緻な知識・現地主義に裏付けられた鋭い歴史観とあいまって、古代の『たたら』や『渡来人』『日本誕生』のロマンが熱っぽく語られている。
- 最近 金属学会報・鉄鋼協会誌に『たたら』『古代鉄』の詳細な研究報告が発表され、学術的にも また、最近多くの人が取り組んでいる。

JANUARY 1998.by M.Nakanishi

日本誕生とたたら　歴史雑感

『IRON LOAD と日本誕生のロマン』

― 出雲と新羅・朝鮮との関係　-スサノオ伝説とたたら-

susaprint.htm 1998.11.1.

いつたい弥生人はどこからやってきたのか？　鉄器はどこから伝わったのか？
『日本誕生』の古代には、北九州･出雲･吉備・丹後・津軽などに時代はことにするとしても大和と拮抗する王国があったという。 この頃、また　朝鮮半島の百済･新羅･高麗から多くの渡来人がやってきて、日本誕生に関わったという。 しかも、鉄の集団と密接に関係して・・・

（慶州：天馬塚にある天馬図）
崇高な文化をこれ一枚で感じることができる

よみがえる古代鉄の王国
伽耶王国展より　1992.8.9.

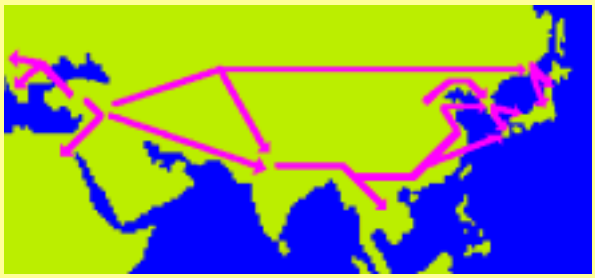
新羅の前身である弁・辰韓にふれた「魏志東夷伝」に「国から鉄が出、倭などみな随ってこれを取る」という記 述がある。 この事は古代朝鮮に製鉄技術があり、それを日本の前身である倭からも取りに行くなどの交流があったことを示している。
また、その後の日本誕生にかかわる出雲スサノオ伝説とも絡み、非常に 興味深い。 そのほか新羅王の冠の飾りに出雲が主生産地としてよく知られていた勾玉が使用されていることも興味深い 。

【出雲スサノオ伝説】

当時　朝鮮半島では部族・民族間の戦い繰広げられ、難を逃れた多くの人たちが渡来人として日本にやってきた。 スサノオノミコトもその一人で新羅系の人たちと共に日本に逃れ、出雲に来て、すでにやってきて、農耕の民と争っていた先住のたたらの民を討ち、国を治め出雲の王となった。その後、 百済系の人たちの大和朝廷に国を譲った。 スサノオノミ コトが鉄を目指して朝鮮半島　当時の新羅から日本にやって来たともいわれている。

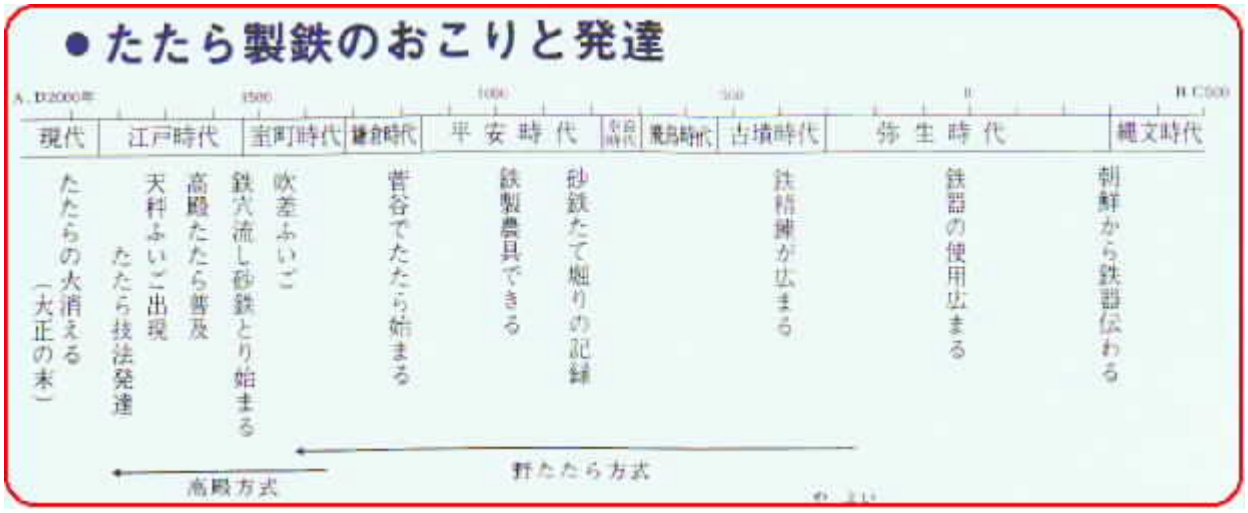
出雲人の祖先は一体どこから来たのであろうか？
出雲は新羅から船を迎日湾に浮かべると海流によってたどり 着くことの出来る場所である。
当時から大勢の移民が出雲に流れ着いたか、意図 的に渡来していたと考えられる。
一方出雲と対峙していた大和朝廷は百済系と言われており、「記紀」等の記述から、出雲を新羅系と認識していたと考えられている。
出雲では砂鉄が取れ、縄文時代の中期頃からすで に素朴な鉄生産が行われていたという記述もある。
倭から弁・辰韓に鉄を取りに 行った人々の情報の中に出雲の鉄のことが含まれていたとしてもあながち妄想で はなかろう。

【大陸/朝鮮半島-日本への古代鉄伝来の道】



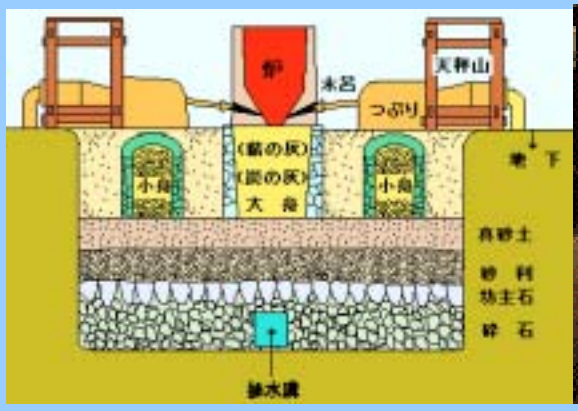
- 瀬戸内
  〔北九州ー瀬戸内ー備中・美作ー兵庫・千種ー大和･畿内〕
- 日本海西沿岸
  〔北九州・長門ー出雲ー丹後ー若狭-琵琶湖-大和･畿内〕
- 日本海沿岸
  〔北九州・長門ー出雲ー丹後ー若狭-越ー秋田・津軽-松前･北海道〕
- 太平洋沿岸ルート
  〔津軽ー三陸ー房総ー畿内-紀伊半島-瀬戸内-北九州-〕
- 太平洋-畿内
  〔北九州-瀬戸内-紀伊半島-畿内･河内･大和〕

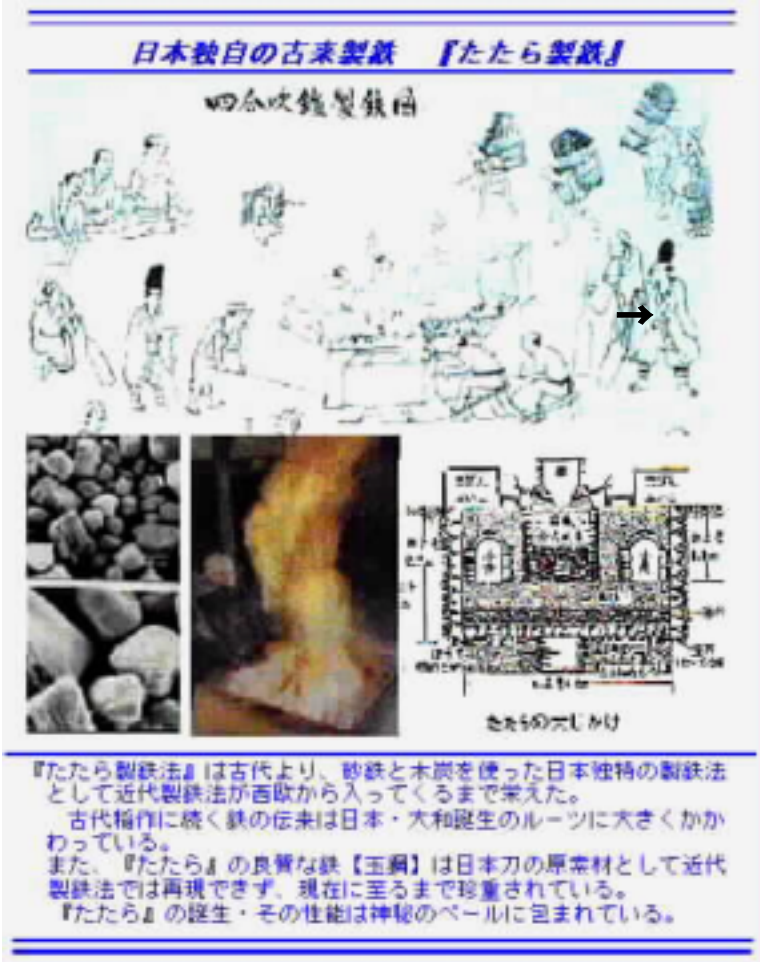
● たたら製鉄の起こりと発達



「たたら」製鉄　日本古来の砂鉄製鉄法

1998.10.1.　giho.htm





「たたら」は粘土製の炉の中へ、原料である砂鉄１５トンと燃料である木炭１５トンを交互に挿入し、砂鉄を溶かして鉄の塊を得る製鉄法である。

作業は三日三晩にわたって行われ、最終日には炉を壊して炉の底で成長した約２．５トンにもなる鉄の塊「けら」を取り出す。

「けら」は冷却した後、細かく粉砕し、「玉鋼」「歩(ぶ)けら」「けら銑(ずく)」等に分ける。

玉鋼」は日本刀の材料に、「歩けら」「けら銑」はさらに加熱鍛錬により「包丁鉄」となり、工具、農具の材料になる。

【　たたら　製　鉄　法　】

◇現在も「たたら」の技法を使って玉鋼を生産している施設

名　称	住　所	電話番号
日刀保たたら	横田町大呂	0854-52-1010
現代たたら (和鋼生産研究開発施設)	吉田村吉田 たたら鍛冶工房	0854-74-0301

たたら

日本刀剣保存協会

「Iron Road 和鉄の道」【1】　和 鉄 探 訪

1.　『和鋼・たたら』との出会い
　　【砂鉄が風紋を作る砂丘海岸　茨城 鹿島・波崎・千葉九十九里浜】
2.　日本人のルーツと「和鉄の道　Iron Road」の接点を求めて
　　『弥生人の源流を探る　=西から東へ=』土井ケ浜シンポジュウムの周辺で
　　1.　山口県土井が浜弥生遺跡　と　「土井が浜シンポジューム」
　　1.1.　土井が浜弥生遺跡　& 人類学ミュージアム
　　1.2.『中国青海省の青銅器時代人骨と弥生人骨』
　　1.3.　長江で『渡来系弥生人』の人骨初確認　-日中調査団　ルート論争に一石-
　　2.日本人のルーツ渡来系弥生人の源流をもとめて
　　3.『弥生人の源流は大陸のどこまでさかのぼれるか』
　　4.　古代日本と中国・朝鮮の交流　　鉄の伝来
　　5.『ヤマタノオロチを退治したスサノオノミコトは朝鮮からやってきた』
　　6.　出雲と朝鮮新羅の関係　　-日本誕生とたたら　歴史雑感-
3.　岡山県　富村　鍛冶谷たたら　　【鍛冶谷たたらと初花】
　　1.　富村鍛冶屋谷 たたら遺跡
　　2.『初花　- ほとばしるたたら溶銑の造形 - 』
4.古代畿内勢力　蝦夷征伐の兵器庫　福島県　原町　金沢製鉄遺跡
　　【　黄金吹く「行方製鉄遺跡」　】
　　1.　7 世紀　畿内王権の蝦夷征伐の兵器庫「行方製鉄」遺跡を訪ねる
　　2.　ヒタカミ「日高見(北上)」の鬼 蝦夷（エミシ）の雄アテルイ
　　3.　8 世紀　蝦夷と戦った畿内王権の前線基地「多 賀 城 遺　跡」
5.　山陰の古代鉄の大王国　伯耆国　-日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -
　　【溝口の鬼伝説と古代伯耆国の製鉄地帯】
　　1.『鉄の伝来をもたらした古代　山陰鉄の王国の出現』
　　-日本誕生に役割を演じた古代山陰の iron road -
　　2.『古代　鉄の集散地　妻木晩田弥生遺跡』-鳥取県淀江町・大山-
　　3.『溝口の鬼伝説』と伯耆の国の製鉄地帯
6.　津軽の古代鉄の大王国　【岩木山北山麓の鬼伝説と古代津軽の製鉄地帯】
　　1.　鬼伝説と古代製鉄
　　2.　岩木山北麓　鬼沢　「 鬼神社 」と「 鬼伝説 」
　　3.　杢沢製鉄遺跡群 鰺ヶ沢町湯舟　と「鬼伝説」
　　4.　中世の交易都市　安東氏の拠点　十三湊
7.東北　秋田・青森　縄文のストーンサークル　【縄文人の心を映すストーンサークル】
　　1.縄文のストーンサークル　これも iron road
　　2.秋田県　鹿角市　大 湯 ストーンサーク
　　3.青森県　青森市　小 牧 野 遺 跡　ストーンサークル
　　4.青森県　青森市　山 内 丸 山 遺 跡　ストーンサークル
　　5.秋田県　鷹巣町　伊 勢 堂 岱 遺 跡　ストーンサークル

8.「弘前ねぷた」と岩木山北山麓「鬼伝説の里」【鬼沢の鬼神社　十腰内巌鬼神社を訪ねて】

1.「弘前ねぷた」

2.「鬼沢のねぷた」出陣へ」

3. 岩木山の鬼伝説

4. 鬼神社　巌鬼山神社を訪ねて

9. 山口県のたたら　美祢河原上たたら遺跡

10. 丹後国の古代鉄の王国 【天女の通った道は鉄の道　【羽衣伝説】】

1. 丹後国　古代　鉄の王国

2.「羽衣伝説　天女の通った道は鉄の道」

3. 弥生時代 3 世紀の大型墳丘墓遺跡 赤坂･今井墳丘墓遺跡

4. ガラスの腕輪と大量の鉄剣が出土した大風呂南古墳

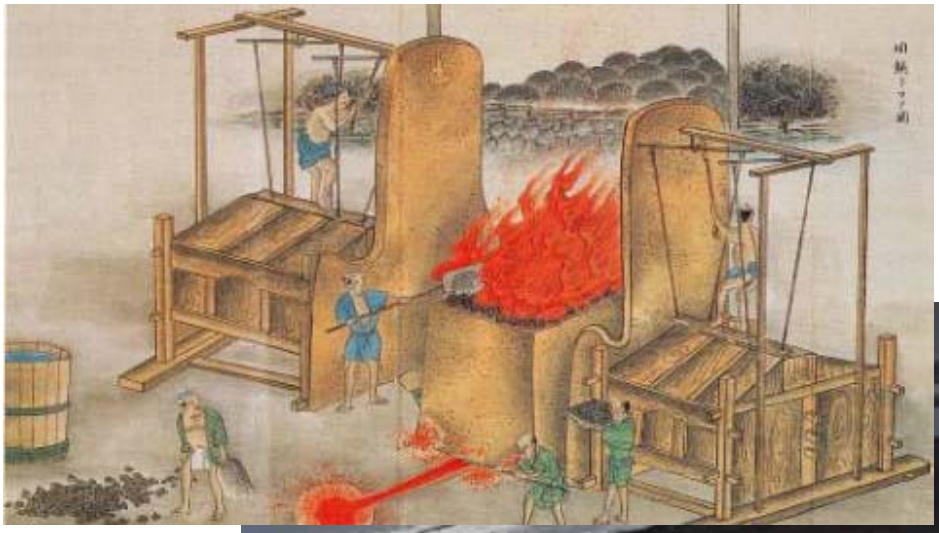
11. もう一つの邪馬台国　丹後国

【大陸と日本を結ぶ古代丹後の国の大製鉄加工基地遠所遺跡】

1. もう一つの邪馬台国　-丹後の国の重要性-

2. 弥栄町　遠所製鉄遺跡 - 丹後の国　古代最古の製鉄コンビナート -

3. 遠所遺跡と製鉄炉と丹後の国製鉄炉の変遷

4. 遠所遺跡原料 高チタン系砂鉄の謎 - 現在の溶接材料につながる高チタン滓系 -

5. 発掘調査中のニゴレ遺跡探訪